

科目名	日本経済史	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			経済 学科	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Japanese Economic History	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 □ 後期 □ 通年 ■ 集中	
ふりがな	たからほ やすなが	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	高千穂 安長	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	古代から令和までの日本経済の発展過程を理解する。			
到達目標	有能な社会人が一般常識として持つべき日本経済の生成過程を把握できる。経済記事をより深く理解し、ある経済行動がどのような帰結を招くかを考えられるようになり、それを自分の意見として表明できるようになる。			
授業概要	古代から令和までの日本経済の発展について、どのようにして可能となったのかを、経済学、経営学の理論を基礎として理解していく。その際、経済のみならず、政治、社会的な要因も考慮するとともに、外部要因として国際関係についても併せて考慮する。			
授業計画				
第1回	イントロダクション 日本経済史で学ぶこと、成績評価等の解説			
第2回	古代の日本経済			
第3回	中世の日本経済			
第4回	室町～安土桃山時代の日本経済			
第5回	江戸時代の日本経済			
第6回	明治 日本版産業革命			
第7回	日清・日露戦争～第二次世界大戦			
第8回	戦時経済体制			
第9回	第二次世界大戦後の占領・復興			
第10回	国際社会への復帰と経済 ブレトンウッズ体制			
第11回	高度経済成長			
第12回	新国際秩序 ブレトンウッズ体制の崩壊			
第13回	日本的経済システム			
第14回	現代の日本経済			
第15回	総復習 学生の理解が低い箇所について解説			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	集中講義受講前に新聞、TV やネットニュースで経済に関することに注意を払い、疑問点を持つ。(0.5 時間) 1 日の講義 5 回分について、翌日確認のためのミニテストを行う。受講生は、特にキーワードについて簡単に記述できるように復習して置くことが求められる。(1.5 時間程度)			
履修条件 受講のルール	地理、マクロ経済学、ミクロ経済学を履修していることが望ましい。これらに関する基礎知識は理解しているものとして講義を進める。 適宜資料を配布するが、事前に連絡なく欠席した学生には原則後での配布はしない。			
テキスト	特に使用しない			
参考文献・資料	川勝平太 2003 『経済学入門シリーズ 経済史入門』 日経文庫 日本経済新聞社 武田晴人 2019 『日本経済史』 有斐閣 (刊行予定) 森良和、小川秀樹他 2022 『三浦按針』 玉川大学出版部			

成績評価の方法	ミニテスト(40%)、定期試験(60%)の結果を元に総合的に判断する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けられない。 出席確認時(授業開始時)に不在の場合は、原則として欠席とする。 授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。
オフィスアワー	集中講義期間中の休み時間等は自由にコンタクト可能。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	歴史は「過去の教訓」を学ぶことであり、現在の世界経済の中心の一つで、第二次大戦後奇跡的に短期間で復興・発展を遂げた日本の経済の発生から現代までの変化を学ぶことは今後の社会人生活に役立つことが多い。大いに興味を持ち、ニュースなどにも注意を払うことが望ましい。